

2023年5月18日

## 日中関係学会主催

### 第11回宮本賞受賞者による受賞プレゼンテーション動画

YouTubeにて限定公開中！

YouTubeリンクの無断転送はご遠慮ください

<https://youtu.be/VkkpMZf050k>

※通信事情の関係で、閉会の辞（国吉副会長）のみ録画できておりません。  
予めご了承ください。

## 第11回宮本賞若者シンポジウム概要

去る3月18日、第11回宮本賞若者シンポジウムが開催されました。会場での開催は実に3年振りです。オンライン参加者と会場参加者を結び、受賞者によるプレゼンテーションや、ディスカッションの部では活発な議論が交わされました。また、懇親会では受賞者の皆さんが参加者たちと談笑する姿も見られ、直接交流することの素晴らしさを改めて感じさせていただきました。下記、シンポジウム概要をお届けいたします。

尚、第11回宮本賞受賞作品12本を掲載した「**嫌中感情に打ち勝つ『華流』の可能性**」（日本僑報社）**を特価でお求めいただけます**。希望者は別添の申込書に記載の上、メールまたはFAXでお申し込みください。

- 日時：2023年3月18日（土） 14時00分～16時30分（日本時間）
- 主催：日中関係学会（本部、関東支部）  
協賛：東芝国際交流財団（TIFO）
- 開催方式：会場とZOOMによるオンラインによるハイブリッド形式

## **第11回宮本賞受賞式**

### **祝辞（宮本会長）：**

今回、実に3年振りの会場開催が実現した。人間は一人では生きられない。仲間が遠くにいても元気が出ない。身近にいることが大切だということを、この3年間、しみじみと感じた。

今、世界は大きく変わっている。その中で、どうしても守るべきもの、また変えなければならぬものの両方が存在する。この大きく変わる世界に生きている我々は、世界を知り、相手を知り、自分自身を知ることが大事になる。その結果、世界に目を開き、世界の人々と対話することが可能となり、世界全体の相互理解と相互認識が高まっていく。

宮本賞に応募いただいた皆さんは、強い自覚を持って、相手を眺め、世界を眺めようとする気持ちを持っている方々である。一生懸命に勉強し、考え、それを文章にまとめ、宮本賞に応募していただき、あり

がとう。そういう皆さんがおられるということ自体が、我々にとっての激励である。

皆さんは若者の中でも、世界のこと、相手のこと、そして自分自身のことを必死で考える人達であることを強く自覚し、今後、ますます大変になる世界、ますます難しくなる日本と中国の関係、そういうものを真剣に考えていただければ、これに勝る幸せはない。

皆さん、ありがとう。そして頑張ってください。

**祝辞に続いて会場参加者に対する賞状授与が行われました。**



(出典) 日中商報より抜粋

## 若者シンポジウム

### (一) 受賞者による論文プレゼンテーション

◎最優秀賞：東京大学／呉雨欣さん（会場参加）

嫌中感情に打ち勝つ「華流」の可能性 ～「韓流」との比較から見る～

◎最優秀賞：武漢大学／張愉佩さん（オンライン参加）

近代日中における「常識」論に対する一考察

### (二) テーマ別ディスカッション （以下、モデレータによる概要まとめ）

#### (1) 若者の目を通して見る日中関係

モデレータ：松野豊（日中産業研究院代表取締役、日中関係学会評議員）

我々はひと口に日中関係と言うけれど、相手方の中国は時代によって大きく異なることに留意する必要があります。日中国交正常化前後、21世紀に入った経済発展の時代、今まさに中国においてコロナ等と闘って生活している人、そして近未来に中国に関わろうとしている人など、同じ日中関係と言っても相手方の中国自身が大きく変わっています。本セッションでは、近未来の中国に関わろうとしている若者たちの意見に耳を傾けようと思いました。



宮本賞を受賞して参加した若者に2つの質問を投げかけました。「なぜこのテーマを選んだのか?」、そして「実際に接してみて、言われていたことと違ったことは?」の2つです。

日本大学Pertech チーム（自動運転の比較研究）の鈴木祐弥さんは、自動運転に関しての日中比較を動機にテーマを選定し、問題解決に関する両国のアプローチの違いを見出しました。また白石優太さんは、

この分野では中国が進んでいるので、日本が学べるものがあるはずだと考えました。

東京大学の呉雨欣さん（最優秀賞）は、日本人が普通に「原神」という中国のゲームを楽しんでいることに衝撃を受け、「華流」が日本人の嫌中感情を和らげる可能性があると感じました。

さらに日本大学Furi チーム（介護ビジネス）の奥平陸平さんは、日中共通の課題である高齢化問題に対して、介護ロボットでの解決策を探ろうとしたし、中野いづみさんは、日本と中国がどんな協力ができるかを考えようと思いました。また当日は欠席だったが、明治大学の木谷加奈子さんは、やはり日中比較の観点でメタバースの産業応用をテーマに選んでいます。

2番目の質問に対しては、鈴木さんが日常に接した中国人の親切さを実感していますし、白石さんもサッカーで日本を応援してくれる中国人にリスペクトを感じました。

呉さんは、日本のアニメなどに触れながら育ったので日本は予想通りだったが、日本人と会話してみると、SNSに書かれているコメントとは違うと感じました。また奥平さんは、中国で働いていた父親から中国の楽しかった体験を聞いているし、中野さんは、一度仲良くなるとずっと気にかけてくれる中国人の良さも実感しました。

セッションを終えてみて言えることは、両国民がリアルで接することの大切さです。また実際に現地の人々と接した経験はとても貴重だということです。今回は、深い議論までには至らなかったが、当学会では引き続きこのテーマで種々のイベントを予定しています。我々は日中の近未来の付き合い方について、日常の交流の中で見出していく必要があります。

#### ディスカッション参加者（5名）:

呉雨欣（ゴ・ウキン）さん（東京大学法学部第3類4年）（会場参加）

鈴木祐弥さん（日本大学商学部商業学科3年／チーム PerTec パーテック）（会場参加）

白石優太さん（同2年）（会場参加）

奥平陸平さん（日本大学商学部3年／チーム Furi）（オンライン参加）

中野いづみさん（同2年）（オンライン参加）

## （2）日中の異文化コミュニケーション

モデレータ：林千野（日中関係学会副会長、第11回宮本賞実行委員長）

「日中の異文化コミュニケーション」は、日系企業に9年間勤務した自らの体験を記した鄧麗姍さんの受賞作品のタイトルです。今後の日中関係を考える上でも、「異文化コミュニケーション」について討

議することは重要だと考え、ディスカッション・テーマに選びました。



鄧さんは学生時代に日本語を学ぶ過程で、「敬語」の難しさや、「年功序列」の制度を知り、日本企業は上下関係が厳しく、年齢が上でなければ昇進できないと勝手に想像していたと言います。ところが、日系企業に入社後、部下が上司に冗談を言って笑い合ったり、年下の社員がコミュニケーションや学習能力を買われて課長に昇進したりと、入社前に抱いたイメージが自分の「思い込み」であったことに気づき、身を以って体験することの

大切さを感じたと言います。

一瀬さんはお父様が日本人、お母様が中国人という家庭環境の下、幼い頃から異文化コミュニケーションを身近に感じていたそうです。そんな一瀬さんが幼い頃、ご両親はふとした事で口論になることが多かったと言います。一瀬さんはその原因を、日本人の父親にとって中国人の母親の物言いや表現がややきついつと感じられることに起因すると分析され、ご両親はお互いのコミュニケーションを通じてその点を学ばれ、徐々に口論は減っていった事例についてお話されました。また、王さん、張さんは共に東北大学への留学を通じ、中国と日本のカルチャーギャップを体感しています。例えば、王さんは来日直後、バスや電車の中で話し声が聞こえない静かな環境にとまどったそうですが、七夕祭りなど地元の祭りに参加することで、今まで感じ取ることができなかった日本人のエネルギーを感じたそうです。張さんは、中国人は先ず自分の意見を述べた後に理由を述べるが、日本人はいろいろな話しをした後に、最後に自分の意見を述べるので、最初は何が言いたいのか判りにくく、戸惑った体験を話してくれました。

異文化コミュニケーションにおいて、もっとも重要な点は何かとの質問には、櫻庭さんは高校時代にカナダでホームステイした経験を引き合いに出し、現地で長期間学ぶことが大切なのではないか、と話してくれました。一瀬さんは、メディアを通じて形成される固定観念や型にはまったイメージを鵜呑みにすることなく、一人の人間として接することの重要性を指摘され、また、張さんは柔軟な思考を持ち、相手の文化を尊重し、理解する姿勢が大切だと話されました。鄧さんは、異なる文化背景を持った人たちと交流すれば、多くの異なる意見が存在するのが当然であり、それを排除するのではなく、話し合いを通じ同じゴールに向かって、双方ともに納得した形で進めていくことが重要である点を挙げました。

現在、日中関係は厳しい状況に置かれています。「国」対「国」の視点に立つと、お互い譲れない主張が先行し、対立しますが、国を構成する一人一人に思いを致し、異文化間のコミュニケーションを促進しようと努力する中で、相手を尊重する気持ちや、理解しようとする気持ちが生まれてくるように思います。この意味で、皆さんのお話を伺いながら、多くの人が異文化コミュニケーションを体感し、その中で悩み、共感し、相互理解を深めることが、国と国との関係改善にもつながるのではと感じました。

最後に、本テーマと直接の関係はありませんが、張さんの論文中の婦人解放運動に注力した周作人の言葉を引用させていただきます。論文では、この言葉が現在の日中関係に対する提言にもつながると示唆されており、私自身、この言葉が胸に刺さったため、ご紹介がてら、本セッションのまとめとして、また今後の活動の精神的な支柱として、記載させていただきます。

---たとえ力が足りなくても、やめてはならない。

---現在役に立たなくても、将来の種をまくことができる。

---「無理と知りながらも敢えてやろうとすること」が必要だ。たとえ力が足りなくても、やめてはならない。

### ディスカッション参加者：(5名)

一瀬和恵さん（青山学院大学政治経済学部国際コミュニケーション学科3年）

櫻庭駿介さん（同上）

鄧麗珊（トウ・レイサン）さん（広東外語外貿大学日本語学部日本語通訳学科1年）（オンライン参加）

王霄漢（オウ・ショウカン）さん（東北大学大学院国際文化研究科博士2年）

張蕊（チョウ・ズイ）さん（東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程）（オンライン参加）

### (3) 歴史・文化研究から見えてくるもの

モデレータ：村上太輝夫／朝日新聞論説委員、日中関係学会理事

宮本賞応募作で歴史にかかわるテーマを扱う論文は毎年、専門的で高い水準に仕上がっているものが多く、今回もその傾向は続いていました。登壇した4名が研究対象としたものは古代から近代まで幅広いもので、そこにうかがわれる着目点の一つは、中国発の文化を日本側がどう受容してきたのか、です。典型例は向偉さんが論じた雅楽「太平楽」です。さきの天皇即位礼で演じられたことから関心を持ったとのことでした。雅楽はもとは中国文化ですが、日本側は単にコピーし、反復したわけではありません。日本で定着した後、長い時間をかけて変化を遂げたものです。



一方、張愉佩さんが着目した「常識」という言葉は、英語「COMMON SENSE」を近代初期の日本で翻訳し、それが中国でも受容されるという過程を経ています。近代にこうした漢語の逆輸入が数多くあったことは広く知られています。たとえば「社会主義」「共産主義」もそうした例で、これらの社会科学用語については通常は日中で意味が一致すると考えていいわけですが、「常識」のような一般語では、かえって意味のズレが起きうるということが明らかにされ、非常に興味深いところです。

こうした比較検討作業をすることにより、日本語と中国語、また日本文化と中国文化双方への理解はいつそう深まるでしょう。シンポでの張さん自身の言葉を借りれば「日本研究は中国の現在を理解する一つの鍵である」と言えるわけです。

歴史や文化の研究はやや遠回りになるかもしれませんが日中間の相互理解を深めるために重要な基礎となる。それが4名の皆さんの共通の思いではないでしょうか。陳永強さんは日中両国に跨っての考古学をめざし、また沈小溪さんは翻訳理論を研究して実際に翻訳にも携わる意欲を語っていました。若い世代がそれぞれ専門分野をさらに究めていってほしいと心から願うものです。

### ディスカッション参加者（4名）：

- 張愉佩（チョウ・ユハイ）さん（武漢大学中国伝統文化研究センター修士 3 年）（オンライン参加）  
陳永強（チン・エイキョウ）さん（名古屋大学大学院人文学研究科博士前期課程 2 年）（〃）  
沈小溪（シン・ショウケイ）さん（上海財経大学日本語学科 2022 年 7 月卒）（〃）  
向偉（コウ・イ）さん（北京大学外国語学院日本語文化系博士課程 4 年）（〃）

(注)参加者の所属、学年は第 11 回宮本賞応募時（2022 年当時）のものです。

### (三) 閉会

#### (1) 宮本賞受賞者との交流プログラムについて（高久保豊・日中関係学会理事）

現在、宮本賞受賞者との交流プログラム 2 件を企画している。

先ず「宮本賞レター交流プロジェクト」。12 編の受賞論文の作者に読後感を記したレター（400 字～800 字程度）を送るプロジェクト。また、5 月下旬（5 月 24 日 18:30～を予定）には宮本賞受賞者を囲む会を zoom で開催する予定である。当日はブレイクアウトルームを作り、少人数で交流するセッションも設ける予定。このほか、日中関係学会では青年交流部会を設けている。若い学生や社会人の皆さんが主役となって交流するプラットフォームであり、詳細は上記の交流プロジェクトと併せ、学会の HP をご覧いただきたい。

#### (2) 第 11 回若者シンポジウム・講評（宮本雄二・日中関係学会会長）

今回のシンポジウムを振り返ってみると、自分が学生の時、どこまで深く考えていたか、そういうことを考えさせるくらい皆さんのお話しだった。日本と中国の関係をどうするか、相手をどのように理解しようか、交流をどうしたら深められるかなど、皆さんの気持ちがよく伝わってきた。

日中関係学会は皆さんと一緒にあって、どうしたら皆さんの声が日本社会の主流の考え方になるのだろうかと思案に考え、全員ボランティアにより活動している組織である。

本日は非常に質の高い、素晴らしい企画に参加できて大変喜んでいる。皆さん方のこれからの益々のご発展と更なる成功を心から祈念し、私の講評に代えさせていただきたい。

#### (3) 閉会の辞（国吉澄夫・日中関係学会副会長）

皆さんのお手許の「宮本賞論文集」について一言申し上げて閉会の挨拶とします。

受賞者の皆さんの、汗と涙の結晶であるこの論文集は、主役は勿論論文を執筆された受賞者の皆さんですが、その過程では、様々な人々が関わって完成されたものであることもしっかり認識して頂ければと思います。

指導教官の皆様のご支援もあり、審査に当たられた方々、編集に携わった方々、そして出版元等々多くの関係者の努力で出来上がりました。

この論文集は、既に 8 巻を刊行し、今回が 9 巻目になります。大学関係者だけではなく、多くのビジネスの世界の人たちも、「今の日本と中国の若者たちは何を考えているのだろう」という問題意識で、購読頂いています。

出版元からの情報ですと、第 7 巻の論文集（Vo1.5）「中国における日本文化の流行」は 2020 年のアマ

ゾン書籍販売のベストセラー（中国の地理・地域研究部門別）で第1位を獲得したとの事です。

今年の論文集「嫌中感情に打ち勝つ「華流」の可能性」もベストセラーとなって、多くの人たちから読んで頂ける事を願っています。

以 上

### 【ご参考】

下記 URL より、若者シンポジウム当日にプレゼンテーションを行わなかった各受賞者の論文プレゼンテーションがご覧いただけます。（第三者への転送はご遠慮ください）

#### ①第11回宮本賞 学部生の部 優秀賞

日中の異文化コミュニケーションについて

～日本語学習と職場経験を通じた日系企業の価値観とその展望～

鄧麗姍（広東外語外貿大学日本語学部日本語通訳学科1年）

<https://youtu.be/uWWX5VXKuoo>

#### ②第11回宮本賞 学部生の部 優秀賞

洪沢栄一の中国観から学ぶべきこと

沈小溪（上海财经大学日本語学科卒業1年）

<https://youtu.be/WeJjU9RliAk>

#### ③第11回宮本賞 学部生の部 特別賞

介護ビジネスエコシステム構想の再吟味～日中の介護ロボットの開発と普及をめぐる検討～

日本大学商学部 チーム Furi 代表者：二見啓介

奥井陸平、清水佳、中野いづみ、耿奕錦

[https://youtu.be/f\\_ZnCGb3GsY](https://youtu.be/f_ZnCGb3GsY)

#### ④第11回宮本賞 学部生の部 特別賞

自動運転車の開発体制に関する一考察 ～中国式から学びうるもの～

日本大学商学部 チーム PerTech 代表者：鈴木祐弥

須田直幸、小池栞理、白石優太、向響生

<https://youtu.be/kNtIw7ZHR8E>

#### ⑤第11回宮本賞 学部生の部 特別賞

中国のフードデリバリーから見る「民間レベルの日中関係」

有次里咲、一瀬知恵、小澤眞有、小谷野浩太、

坂田濤司、櫻庭駿介、趙哲璋、山口杏菜

<https://youtu.be/MVxBREL6B3E>

#### ⑥第11回宮本賞 院生の部 優秀賞

古代日中の文化交流に関する考古学的考察～特殊須恵器からみた～

陳永強（名古屋大学大学院人文学研究科博士前期課程2年）名古屋大学大学院 陳永強さん「古代日中の文化交流に関する考古学的考察」

<https://youtu.be/u6HbchVR6ew>

**⑦第11回宮本賞 院生の部 優秀賞**

中国人の心を奪った村上春樹作品の翻訳戦略

～林少華の翻訳目的と彼の「塩味」に関する考察～

王霄漢（東北大学大学院国際文化研究科博士2年）東北大学大学院 王霄漢さん「中国人の心を奪った村上春樹作品の翻訳戦略」

<https://youtu.be/pbSK9IuTv2I>

**⑧第11回宮本賞 院生の部 特別賞**

和して同ぜず：雅楽「太平楽」の生成と変容

向偉（北京大学外国語学院日本語文化系博士課程4年）

<https://youtu.be/3o1ntdGB5VI>

**⑨第11回宮本賞 院生の部 特別賞**

周作人を変えた二つの体験 ～彼が女性解放運動で得たものは何か～

張蕊（東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程）

<https://youtu.be/sCu6SjoIAaM>

**【若者シンポジウム・メディア取材記事】**

CCTV

<https://m.youtube.com/watch?v=DqNjCn9dY2E&feature=share>

日中商報（中国語）

<https://mp.weixin.qq.com/s/g1UlwHPumztjLZj9Cg1FGA>

以 上